

(別添2)

事業評価の結果 (内容評価項目)

福祉サービス種別 保育所
事業所名 (施設名) 佐久市立大沢保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>○保育課程は、佐久市の保育理念、当園の保育目標に基づいて編成され、保育所保育指針との整合性も図られ、子どもを取り巻く環境の役割(保育園、保護者、地域等)を明確にして、積極的に連携し、園児を主体として、総合的に展開する仕組みが明文化されています。</p> <p>○保育課程の編成は、定期的な振り返りや記録等により評価を行い、次の編成に反映させる仕組みがあり、組織としての評価、振り返りを定期的に行っています。</p> <p>○保育課程の編成策定は、外部から専門講師を招いて研修会を行っています。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○小規模のこじんまりした保育園で、園庭に面した廊下は広く、全ての保育室は、大きな窓で風通し、採光、換気、広さ等、子どもたちが落ち着いてくつろぎ、心地よく過ごせる環境として整備されています。</p> <p>○手洗い場、トイレ設備は古いですが、園児が使いやすい工夫もされて、清潔感のある環境になっています。</p> <p>○園舎や設備・備品も古くなり、保護者からも改修、建て替えの要望もあるようですが、園児数も少なく今後どうするかが一番の課題との話しが園長からありました。職員の自己評価のコメントでも、全保育室のエアコン化や保育室の狭さについての改善要望がありました。</p> <p>○保護者アンケート調査結果では、「すばらしい保育園なので、もっと園児が増えて欲しい」とのコメントがありました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○保育士は、一人ひとりの園児の家庭環境や生活リズム、発達状態を的確に把握することに努め、園児の個人差や特性を共有周知して、個々の園児の状態に応じた適切な保育支援を実践し目指していることを職員インタビューや指導計画書、記録等で確認できました。</p> <p>○少人数の保育環境ということもあり、保育士も全体的にゆとりが感じられ、園児一人ひとりに対しても制止する等の言動は、ほとんどなくゆったりとした保育が展開されています。</p> <p>○保護者アンケート調査結果には、「家では、のんびりした子どもに親の私はイラっときますが、個性ですよ。優しいいい子ですよ。と保育士に言っていたが、本当に嬉しかったです。」のコメントがありました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○保育課程・指導計画には、園児の年齢に応じた基本的な生活習慣の目標が示されていて、保育士は、一人ひとりの園児の発達状況に応じて、適切な集団保育や個別保育を展開しています。</p> <p>○園児の基本的な生活習慣の到達状況は、指導計画に記録し、連絡帳や個別懇談会等で、保護者にも適切に伝え共有を図っています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○保育課程・指導計画には、乳児、3歳未満児、3歳以上児の発達に応じた、主体的・自発的な活動目標が設定されていて、それに基づいて、保育士は一人ひとり園児に応じた適切な保育を実践していることを指導計画書や個別しど計画書の記録で確認しました。</p> <p>○少人数の保育を活かして、保育士は、園児自らが進んでやろうとする気持ちや行為を見守りながら、時間がかかっても実際にやることのできるように働きかけ、やり遂げたときには一緒に喜んで、さらに次のチャレンジに向かうという保育支援が職員インタビューや記録で確認できました。</p> <p>○戸外での散策活動は、多く計画されて、日常的に地域の人たちと接する機会があります。</p> <p>○保護者アンケート結果には、「園外散歩等で地域の方々たくさん交流もでき、自然がたくさんある中で、のびのびと生活させていただき子どもにとって大変いい環境です」とのコメントがありました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○現在、0歳児の利用はなく乳児保育はしていないということですが、保育課程・指導計画は適切に整備されていて、乳児期における発達の個人差や抵抗力の弱さや表現の未熟さ等に配慮した細かい計画になっています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○3歳未満児は、1歳児1名、2歳児10名で2人の保育士が保育しています。保育計画は保育課程による指導計画に基づいて、感染症対策や基本的生活習慣、事故防止等に配慮した養護・教育への取り組みが個別指導計画の記録や職員インタビュー、連絡帳等で確認できました。</p> <p>○3歳児未満クラスは、賑やかな中でも全体としては落ち着いた雰囲気があり、二人の担当保育士が連携をとり、適切な保育支援が感じられました。</p> <p>○3歳以上児との交流も日常的に行われ、家庭的な雰囲気の中で、保育士、園児が和やかに過ごしています。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○3歳児以上の保育支援は、基本的生活習慣や自主的活動、周囲の園児たちとの関わり方、運動活動、集団活動等に配慮工夫したプログラムが用意され、指導計画に基づいて実践されています。</p> <p>○就学前の園児については、就学先の2つの小学校との相互交流や教員との情報交換、保護者との面談等により、就学の準備を適切に行っています。</p> <p>○副園長や職員インタビューでは、就学先が2つの小学校に別れるので複雑な思いがあるとのことでした。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			<p>⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○障がいのある園児の保育については、指導計画に基づいた個別支援計画により、一人ひとり園児の障がい特性に配慮した保育を行っています。</p> <p>○発達障害の子どもさんがグレーゾーンを含めて、数名利用していますが、発達過程や障がいの状態を把握して、設備や他の子どもさんとの交流にも配慮した個別保育計画に基づいた保育支援を展開しています。</p>
			<p>⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○指導計画には、長時間保育についての要領が示され、それに基づいて長時間保育が適切に実施されています。</p> <p>○長時間保育については、「入園の案内」にも明記され、保育内容や保育士間の引継ぎ、保護者との連絡等の基準があり、適切に実施されています。</p> <p>○特に夕方以降の長時間保育では、園児が一日の疲れを感じていることに配慮し、広めの落ち着いた部屋を用意しています。</p> <p>○保育士とゆっくり関われるようにして、絵本を読み聞かせたり、安心してくつろげるようにしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○就学先の小学校との連携や交流については、年長児の指導計画に示され、計画的に実施されています。</p> <p>○就学先の2つの小学校とは、園児の訪問交流や小学校児童の来園交流等の相互交流の機会を設け定期的の実施しています。</p> <p>○小学校教員、保育士、市の子育て支援課と合同で意見交換の場を計画的に実施し、連携や就学に向けた取り組み等を実施しています。特に年長児の保護者との個別面談により、保護者の就学への不安や課題等にも適切に対応しています。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○園児の健康管理については、園児の保健に関する計画に基づいて、入園の案内や連絡帳を活用して対応しています。</p> <p>○保健計画には、園児の健康と安全の確保は、保育園の基本事項として位置づけ。一人ひとりの園児さんの健康状態、発育・発達状態に応じた心身の健康保持のためのマニュアルを整備して適切に実施しています。</p> <p>○乳幼児突然死症候群（SIDS）への対応は、保健計画や入園の案内にも明示し、保護者への説明や学習会を実施しています。保育士は、SIDSに関する外部研修会に参加したり、外部専門講師を招いて内部研修をする仕組みがあります。</p>	
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○健康診断及び歯科検診は、保健計画により、年間計画として、適切に実施されています。</p> <p>○健康診断等の結果については、健康カルテや指導計画等にも記録され、職員間で共有できる仕組みになっています。</p> <p>○健康診断や歯科検診の結果については、保護者に連絡帳等で通知し、治療等が必要な園児については、個別面談により説明する仕組みがあります。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギー疾患や慢性疾患等の園児については、アレルギー対応ガイドラインに基づいたマニュアル等により、囑託医や保護者等と連携を密にして、適切な対応を行う仕組みがありました。</p> <p>○アレルギー疾患等に対する当園の対応マニュアルは、「入園のしおり」にも詳しく明示され、保護者に個別面談で対応する仕組みになっています。</p> <p>○アレルギー疾患等に対する定期的な職員研修や記録の整備も適切に行われています。</p> <p>○アレルギー食の提供にあたっては、お膳の色を少し変えたり、保育士が確認する等のチェック体制があります。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○食事提供に関することについては、指導計画や個別指導計画に、食育や食事に関する基本事項が明示され、園児一人ひとりの食の状況について記録、整備されています。</p> <p>○食事を楽しむ工夫環境については、調理室の可視化が工夫されていました。一人ひとりの園児の状況に応じたテーブル、椅子の高さ等に配慮して、年長さんには、おかわり等も用意されています。</p> <p>○食育は家庭との連携も重要になることを考慮し、提供した献立メニューのサンプル写真を園だよりで保護者に知らせたり、定期的に試食会を実施しています。</p> <p>○特に食育については、園の畑で園児と一緒に育てた野菜（カボチャ、ニンジン、大根、キュウリ等）を収穫し、しばらく園庭や保育室の前で展示してから、調理員が花形等の野菜を工夫して、サラダや味噌汁に添えて提供していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとして ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○食事は、衛生管理マニュアルにより、ほとんどの食材を地域産を利用した献立メニューが市の栄養士により計画されていました。</p> <p>○保育士は、子ども一人ひとりの成長や発達状態、家庭の食生活の状況も把握しながら、調理員と定期的に献立や調理方法について検討会を実施し、園児がおいしく安心して食事を楽しむ工夫配慮に努めていました。</p> <p>○調理スタッフ間でも、調理方法や味付け、盛り付け等についての話し合いをして、園児の食事の様子や残飯もチェックして、調理に反映させているとのコメントがインタビューでありました。</p> <p>○調理室や保育室は、衛生管理マニュアルに基づいて、定期的に消毒や清掃が行われ、園長や旬保育士が点検する仕組みがあります。</p> <p>○調理している様子を直接園児も見ることができ設備になっており、食育環境にも配慮しています。</p> <p>○特に年中・年長児のクラスでは、食事前の手洗いや準備等も当番園児がリードしてスムーズに行い、おかわり等も自主的に行う等、全員の園児が食事を楽しんでいる様子が伺えました。</p>
	2 子 育 て 支 援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○園の保育方針や目標については、入園の案内により、保護者会等で詳しく説明しています。</p> <p>○園児一人ひとりの保育の状況については、個別指導計画や連絡帳や送迎時の懇談等で保護者に伝える仕組みがあります。</p> <p>○特に保育参観日には、個別懇談も行き、保護者や家族の思いを把握し、保育計画に反映していることを記録や職員インタビューで確認しました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○保護者の相談支援には、園長や主任保育士が対応する組織的な仕組みがあります。</p> <p>○連絡帳や送迎時の保護者からの相談内容は、毎日主任保育士と園長が確認し、速やかに連絡帳や個別面談等で対応していることを連絡帳や記録、職員インタビュー等で確認しました。</p> <p>○保護者アンケート結果や職員自己評価結果、職員インタビューにおいても、小規模保育園の良さについて高い評価があり、保護者と保育士の信頼関係が構築されていることを伺える内容が確認できました。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○虐待防止マニュアルにより、虐待防止等の権利侵害を受けている子どもの早期発見、早期対応、予防等の取り組みが図られています。</p> <p>○虐待や権利侵害に関する情報や相談については、当園と市の子育て支援課が連携して対応する仕組みがあります。</p> <p>○これまで虐待に関する事例はないとのことですが、保育園は、園児等の虐待予防や保護者支援を求められています。さらに虐待防止や権利侵害等に関する内部研修等職員の研修体系を整備していただくように期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○多くの保育士が、指導計画や保育の記録を通して、自己評価や振り返りを行っていることを、職員インタビューで伺えました。</p> <p>○目標管理における職員自己評価の仕組みはありますが、保育課程と指導計画に基づいて、保育を実践して、振り返り等の自己評価を組織的に行う仕組みを整備し、専門性の向上や保育の改善に向けて、さらに取り組むことを期待します。</p>